

エミリーの

見て歩き

No. 7

「たくさんの思い出、ありがとう！」

きれいな山や川、そして咲き乱れる花、心に沁み込む緑、風や雨の音、しんしん降る雪、まぶしい太陽、そして何よりも鬼北の皆さんの温かい心…2年間たくさんの思い出ができて、鬼北の皆さんに感謝しています。これからも鬼北のことを忘れずにずっと頑張っていきたいと思います。

国際交流活動の一つは、毎月の広報に文章を書くことです。いつも「どんな方々が読んでくださっているのかな」と思いながら、エミリーの見て歩きを書いています。今までのような文章しか書けませんでした。異文化について多く知っていただき、少しでも興味を持っていただけたら幸いです。

自国の事情を、知っているようで知らない事が多く、毎日インターネットで調べていました。そのお陰で、私は常に緊張感に包まれ、充実した日々を過ごしました。文化講座は、私自身も勉強になりましたし、カナダ、台湾と日本との共通点、相違点を一段と深く理解できました。

2年経って、たくさん大切な経験をさせていた

だきました。予想以上に短いような、長いような期間でした。全ての思い出について書こうと思ったら、この一ページだけでは全然足りないと思います。しかし、印象に残ったのは、いろいろな道を歩んでいる人と出会えたことです。子どもからお年寄りまでの人々と交流ができ、本当にうれしかったです。学校訪問、学校の行事などのお陰で、いつも元気いっぱいの子どもたちとの交流が多かったです。子どもころから鬼北町以外のことにも興味を持つことは素晴らしいと思います。子ども自身が動き、子ども自身が他の人を受け入れようとするのが最高です。ボーダーレス社会を実現するためには、そのような積極さが必要です。大人になっても、鬼北町の子どもたちがその積極性と好奇心をずっと持つように望んでいます。

鬼北町にいた間にお世話になった方々に心を込めてお礼を申し上げたいと思います。最後に、社会経験が浅く、ワガママな考え方を持つ私を受け入れてくださった鬼北町役場と日吉支所および仕事、生活、言葉などの面で指導してくれ、育ててくださった教育委員会の皆様に感謝したいです。

人生で見ると2年間は短い時期であるかも知れませんが、私の人生で見ると鬼北町の2年間は一生に忘れられない貴重な経験になりました。何年か経って、皆さんが武左衛門広場の桜の下で花見をし、花びらが散っていくのを見た時に、鬼北町での2年間が終ろうとしている今の私の気持ちが分かると思います。帰国しても、鬼北町のことは決して忘れません。私のことも忘れないください。

皆さん、さようなら。

Emily Chia-Shan Wu

エミリー チャンサン ウー

新しい国際交流員をご紹介します

私の次に鬼北町に来ることになった国際交流員は、トニーという24歳の台湾系カナダ人です。偶然にも彼は、私と同じ大学の出身だそうです。皆さん、ぜひ、今までどおりに新しい国際交流員を温かく見守っていただきますようお願いいたします。

Hsueh Kun Tony Lu

シェイクトニー・ルー

